



西二小だより

須賀川市立西袋第二小学校
平成23年7月20日 第12号
発行者 校長 吾妻 敦
www.nishibukuro2-e.fks.ed.jp/
E-mail:school@nishibukuro2-e.fks.ed



わたしはひろがる
岸 武雄

わたしは小さいとき、
おやつのお菓子が弟より大きくないとおこった
じだんだんふんで泣いたこともある。
わたしが世界の全てであった。

やがてわたしは、弟も私と同じように、大きい
お菓子をほしがっていることが、わかってきた。
わたしはけんかしながらも、
同じように分けることをおぼえた。
ときには、弟があまりつまそつに食べるので、
自分の分も分けてやった。
弟といっしょにお菓子を食べると、
お菓子の分量はへったが、なんとなく楽しい。
こうして、わたしの中に弟がはいってきた。

おかあさんがどんなに忙しそうに働いていても、
わたしは平気だった。
おかあさんは、ああいうものだと考えていた。
やがてわたしは、「おかあちゃん手伝おうか」と、
言えるようになった。
お母ちゃんと仕事をすると、何となく楽しい。
こうして、わたしの中へおかあちゃんがはいってきた。

やがてわたしは、小さいグループで
教えあつたり助け合つたりすることをおぼえた。
こうして勉強をつづけていると、
わかつたつもりの問題も、友達から質問されると、
何と答えてよいかわからないことが、出てきた。
今までできないと思っていた友達が、
だんだんえらく思えてきた。
こうしてわたしの中に、友達が入ってきた。
遊び友達ばかりでなく、勉強の友達が入ってきた。

東北大学の元学長であった加藤陸奥雄先生は、「私の最初の記憶は満4歳の時にはじまる。私は庭で蟻の巣を見つけ、それで遊んでいた。近所で新築工事をしていたので、大工さんから木の切れ端をもらい蟻の巣を困った。やがて日が暮れ、自分は床に入ったが、困いの中の蟻がどうしても心配で眠れない。ゴロンゴロンしていると、母親が「どうしたの」と聞くので、「蟻のことが心配で」と言うと、母親は手に提灯を持ち「起きて一緒に蟻を見よう」と言って雨戸を開け、庭へ下りて一緒に蟻を見た。蟻は静かにしていた。提灯を手にして「蟻を見に行こう」と言った母の立つ姿が今でも目にありありと残っている・・・」と書いています。加藤先生の兄弟は4人とも理学博士で、学者兄弟として有名です。両親の育て方がやがて自分の頭でモノを考える人を育てあげたのではないのでしょうか。

私たち教師や保護者は、うまく教えられないことをともすれば子どもの責任にしがちです。また、子どものできることに比べて、できないことに気をとられがちです。何ができないかよりも、何ができるかに関心を持ち、子どもが自分自身をよりよく生かせる方向を子どもと共に考え、子どもにかかわっていくことが大切な役割だと考えます。

●●● 震災によるマイナスからのスタート でも子ども達は笑顔で学校生活を送っています ●●●

例年ですと、連合運動会や鼓笛パレード、プールでの水泳指導の話題など紹介していましたが、今年度は、震災によるマイナスからのスタートとなってしまいました。このような状況の中でも、子ども達は笑顔で学校生活を送っていました。6年生児童会を中心とした「スマイルプロジェクト」大作戦では、月1回の全校生参加による遊びを中心としたスマイル集会や体育館での「よさこい」などを行いました。また、MCL推進大会での堂々とした発表、暑い中でも勉強に頑張る子ども達の真剣なまなざしなど、どれだけ子ども達の姿勢や笑顔に救われたことでしょうか。これからもこの笑顔を大切に、そして、この笑顔を維持していきたいと考えています。

お知らせ～離任式を7月29日(金)に行います。放射線量の比較的高い中、できるだけ子ども達の登校回数を少なくしようと考えていましたが、教職員の人事異動に伴う辞令が7月25日(月)に、そして新聞発表が26日(火)となるため、やむなく、29日(金)に行うこととしました。お世話になった先生方とのお別れの式となります。8時15分登校、9時50分集団下校となりますのでご協力よろしくお願ひいたします。